



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
10/19 (月)	トン	+ 9,100	+ 9,100	国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補完供給 300 国債買入 + 3,700		
10/20 (火)	トン	+ 13,000	+ 13,000	国庫短期証券発行償還 (1Y)			
10/21 (水)	トン	▲ 7,000	▲ 7,000	国債発行 (20年)			日：貿易収支 (9月)
10/22 (木)	トン	▲ 5,000	▲ 5,000				
10/23 (金)	▲ 500	▲ 5,000	▲ 5,500	流動性供給			日：CPI (9月) 米：製造業・サービス業PMI (10月) 欧：ユーロ圏製造業・サービス業PMI (10月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1兆6,200億円増加の409兆8,300億円から始まった。その後、国債発行、源泉所得税揚げ、年金定時払い等の要因により増減し16日は415兆8,000億円（速報）で越過した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、1.228%から始まり、その後も概ね横ばい圏で推移した。

ターム物は1W～3W物1.225%～1.360%のレンジ、1M～3M物1.320%～1.510%のレンジで出合いが見られた。

来週の予定は、国内では23日にCPIの公表、海外では19日にAPEC財務相会合の開催、23日に米製造業・サービス業PMI（10月）の公表、ユーロ圏製造業・サービス業PMI（10月）の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	1.220 ～ 1.228
1M	1.30 ～ 1.45
2M	1.35 ～ 1.50
3M	1.45 ～ 1.60
6M	1.60 ～ 1.75

<レボ>

足許GCは週を通して1.250%～1.255%の狭いレンジでの出合いとなった。買い入れオペや短国の発行の影響もほとんど見られず、水準に変化はなかった。

SC取引は2年484～488回債、5年180～187回債、10年361～372、379～383回債、20年194～197回債、30年87～91回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	1.2台前半
CP 3M (a-1+)	1.4～1.5台

<CP>

今週の入札発行総額は1兆9,950億円で、週間償還額の1兆4,700億円を上回った。発行残高は、先週末時点の24兆4,633億円から、10月15日時点で24兆6,904億円へと増加した。発行市場では、小売業・建設業・その他金融業をはじめとする幅広い業種で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で1.2%台後半から1.3%台、3ヶ月物で1.4%台から1.5%台と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約1兆3,500億円となっている。発行市場は、5・10日に絡めた相応の発行需要が見込まれ、活況なマーケットになると思われる。発行レートは、日本銀行が利上げを継続する姿勢を示していることから、引き続き水準を探索の展開となるだろう。

<TDB>

16日の3M（第1413回債）の入札は、最高落札利回り1.2856%（前回債1.2799%）、平均落札利回り1.2803%（前回債1.2738%）となった。

来週の入札は10月19日に1Y、23日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。